

03-10-8LBY-18

バレエと日本舞踊における手による感情表現

—舞踊運動評価尺度を用いた認知実験—

○猪崎弥生 (お茶の水女子大学)

バレエと日本舞踊の熟練者の手による喜怒哀楽の身体表現を、一般の女子学生39名に呈示して、舞踊運動評価尺度 (猪崎、2006) で評定させた。分散分析を行い、変動が有意であった要因、および交互作用について詳しく検討した。その結果、舞踊様式による変動が17評定尺度中11に見られた。また、「重い-軽い」を除く16評定尺度について4つの感情表現が異なって認知されることが確認された。さらに、交互作用の分析から、日本舞踊では怒りと他の3つの感情表現の差が著しい、一方、バレエでは4つの感情表現が同じ関係性を示すことが認められた。実験結果は、バレエと日本舞踊の熟練者の手の動きと足の運びを分析した先行研究 (猪崎、2008) で得られた知見を支持しており、また、バレエの熟練者が4つの感情表現を踊り分けていることが確認できた。



03-10-8LBY-19

体育実技履修者の精神健康度評価

—UK検査からみた単位取得者と不合格者—

○滝 省治 (甲子園大学)

大学設置基準の大綱化によって単位数の規制が大幅に緩和され、必修科目であった体育実技も選択制に移行した。調査対象大学は選択必修制のカリキュラムを採用し、履修者数に変動はあるものの半数を越える学生が履修している。しかしながら、あくまで選択制であり単位取得に対する学生の姿勢は甘くなる傾向があり、年度後半に入り規定出席回数の限度が迫ると脱落者が多く出る現状が散見される。特に2、3年間続いたセミスター制度から従来の通年制に揺り戻しのあった昨年度は履修者の半数が不合格となる事態に至った。今回、年度当初に行ったUK検査から脱落者の特徴を明らかにして、履修者の修学を支援する有効な手立てが得られないものかと検討した。精神健康度の指標とされる休効に単位修得群と脱落群間t検定値に差は認められなかった。今後、不合格者に対する聞き取り調査の結果を交えて不合格に至った過程を詳細に吟味するとともに、UK検査の特徴である視覚判定による人柄判定と精神健康度、さらに曲線変動傾向を加えた質的な分析結果を報告する。

03-10-8LBY-20

足底刺激環境の違いによる前額皮上電位の検討

○山陰繁恵 (畿央大大学院)、東山明子 (畿央大大学院)

【目的】脳に刺激を与える刺激物を特定することにより、よりよい立位姿勢保持と二足歩行に貢献することを目的として、足底への異なる刺激による前額皮上電位の違いを検討した。【方法】足底の感覚が正常な健常成人14名 (男子10名、女子4名) を対象に、前額皮上電位測定器 (FFT Brain Waves Analyzer FM919 FUTEX製) を用い、 $\beta 2$ 、 $\beta 1$ 、 $\alpha 3$ 、 $\alpha 2$ 、 $\alpha 1$ 、 $\theta 3$ 、 $\theta 2$ 波の出現量を測定した。環境設定は、床面と3種類の刺激環境 (ショットガン、プラスチック芝、砂) とした。裸足で床面と各3種類の刺激物の上での静止と足踏みを各1分間ずつ行い、その間の前額皮上電位を測定し、床面との比較検討を行った。【結果】静止時において、ショットガンでは $\theta 3$ 波は有意に多く、 $\alpha 1$ 波は有意に少なく、プラスチック芝生では $\theta 3$ 波は有意に多く、 $\alpha 1$ 波は有意に少なく、砂では有意差がみられなかった。また、足踏み時において、ショットガンでは $\beta 1$ 波・ $\alpha 3$ 波・ $\theta 3$ 波・ $\theta 2$ 波が有意に多かった。以上からショットガンの刺激が脳活動活性化に有効であることが示唆された。